

P-D-1

乳酸菌抽出物(LFK)摂取が皮膚の保湿能と色素沈着に及ぼす影響

The effect of oral intake of Lysed *Enterococcus faecalis* (LFK) on skin condition.

○小林 裕美¹⁾, 曾和 順子¹⁾, 岡野 由利¹⁾, 石名 航¹⁾, 田宮 久詩¹⁾,
安田 滋¹⁾, 水野 信之¹⁾, 石井 正光¹⁾, 古野 哲生²⁾, 岡森万理子³⁾, 嶋田 貴志³⁾

1) 大阪市立大学大学院医学研究科皮膚病態学, 2) ロート製薬株式会社, 3) ニチニチ製薬株式会社

We investigated the effect of oral intake of Lysed *Enterococcus faecalis* FK-23 (LFK) on skin condition of normal people using randomized placebo-controlled double blind test. Skin color and moisture content in the skin were measured at every three months. After 6 and 18 month of study, skin color in LFK group showed tendency to be lighter than in placebo group. Improvement of pigmentation was recognized clearly in 4 out of 14 in LFK group, whereas no one in placebo group.

【目的】

乳酸菌抽出物「LFK」は、*Enterococcus faecalis* FK-23 菌を酵素で処理した新しい乳酸菌素材で、これまでにアレルギー抑制効果や、ざ瘡・酒さといった皮膚疾患に有効である事が報告されている。我々は、LFK の継続摂取が健常人皮膚機能に与える影響を二重盲検比較試験で検討し、昨年の本会で、一年間の保湿機能の推移について報告した。今回、試験開始から2年を経過した保湿機能の長期データに加え、色素沈着に対する色差計のデータおよびアンケート結果を総合し、LFK の長期摂取が皮膚に及ぼす影響を検討した。

【方法】

20代から50代までの健康な男女28名を無作為に2群に分け、LFK群(15名)はLFK1.0gを含有する顆粒食品を、placebo群(13名)はLFKをデキストリンに置き換えた顆粒食品を、継続摂取した。摂取開始から3ヵ月おきに、経表皮水分蒸散量(TEWL)、表皮角層水分量および皮膚色差(L値)の測定を行った。また、摂取前後の皮膚状態をアンケートにより調査した。

【結果】

2年間継続摂取した被験者は、LFK群12名、placebo群9名であった。残り7名は、多忙のため検査を受けられず脱落した。この内、開始時の露光部角層水分量が平均値以下のグループ(LFK群3名、placebo群5名)を比較すると、開始時を100とした時、1年後および2年後の水分量は、LFK群で133.6(±10.2)および111.3(±32.6)、placebo群で60.1(±18.5)および79.8(±38.6)と、LFK群に水分量増加傾向が認められた。非露光部L値は、飲用前を100とした時、飲用6ヵ月後および飲用18ヵ月後(共に8~9月)の値は、LFK群(5名)で100.1および102.2、placebo群(7名)で97.8および97.7と、LFK群に色素沈着改善傾向がみられた。アンケート調査では、摂取12ヵ月目の「日やけが薄くなる感じがあるか」の問いに、LFK群で14人中4人が「薄いと感じる」と答え、placebo群では12人中12人が変わらないと答えた。

【結論】

LFK摂取により保湿能改善効果や色素沈着抑制効果がみられることが示された。その効果は、機器測定値のみならず、アンケート調査における飲用者の感覚として顕著に現れた。補完代替医療の評価において、自覚症状の推移を同時に検討することは重要であると考ええる。